

期	入学年度	修士論文タイトル
1期生	2003	企業組織における中間管理者の葛藤への対処プロセスについて —修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析—
1期生	2003	高機能自閉症・アスペルガー症候群の子どもの社会的分脈の理解に関する研究 —社会推理テストの作成を目指して—
1期生	2003	ロールシャッハ・テストの人間運動反応に関する—研究 —親子関係と共感性の観点から—
1期生	2003	児童福祉施設における援助過程について ～施設職員との関係性の視点から～
1期生	2003	題目 中学校教師のバーンアウトについての—考察 ——教師の過剰適応と仲間関係を中心に——
1期生	2003	出産・育児を巡る夫婦役割分担、配偶者サポートが 夫婦関係満足感に与える影響について —夫婦システムの円環モデルの観点からの検討を通して
2期生	2004	青年期女子における親子関係と自己破壊傾向との関連性についての—研究
2期生	2004	中学生の養育者への養育態度の認知とソーシャルサポート知覚の関連について—不登校傾向の視点から—
2期生	2004	不安から抑うつへの過程について —反応スタイルと原因帰属の視点から—
2期生	2004	ある発達遅滞児に対する臨床心理学的介入 —三項関係の成立過程—
2期生	2004	青年期における愛着スタイルと心的表象についての—考察
3期生	2005	強迫性格の形成過程に関するレトロスペクティブ研究 —親子関係の観点から—
3期生	2005	理想と現実の不一致の程度が挑発刺激への反応性に及ぼす影響 ～「堪忍袋モデル」作成を目的として
3期生	2005	親密な対人関係の満足度に関連する諸要因 ～対人関係意識による検討～
4期生	2006	青年期における仲間関係と規範意識が不良行為傾向に与える影響
4期生	2006	大学生女子における最早期記憶と分離 —個体化との関連
4期生	2006	絵本の読み聞かせ場面における幼児観察 —画面と対面の読み聞かせの比較—
4期生	2006	子ども集団の中での個別対応における教育支援センター(適応指導教室)スタッフの意識と実践 —A市適応指導教室スタッフの面接調査を通して—
4期生	2006	一般女子青年にみられる自己愛の傷つきへの対処・回復プロセス
4期生	2006	認知面及び社会性の発達に遅れが見られる幼児に対する 臨床心理学的介入の検討
5期生	2007	女子大学生における他者との「かかわり」特質について ～質問紙とインタビューを通して～
5期生	2007	児童養護施設職員の対人ストレス —共感疲労とバーンアウトをめぐる—
5期生	2007	児童養護施設における園芸療法の導入可能性について —ある児童養護施設における短期卓上園芸療法の試みを通して—
5期生	2007	幼児の対人葛藤場面における自己調整機能の発達について
5期生	2007	臨床場面においてクライアントの内省型自己注目を促進させるための介入の検討
6期生	2008	第1子の出産をめぐる夫婦が親意識を自覚していく過程について

6期生	2008	思春期・青年期の発達障害者をもつ母親の対児感情について—その要因と母親による意味づけの変化の検討—
6期生	2008	対人関係の中での自己愛の傷つき場面における問題解決行動に関する研究
6期生	2008	カウンセリング初回面接における“心理的接触”について-逐語記録の分析から-
6期生	2008	臨床場面におけるクライアントの自己開示の質が変化するプロセス —セラピストの介入との相互作用の観点から—
6期生	2008	ロールシャッハ・テストにおける色彩反応と情緒との関連について —バウムテストへの反応を手がかりとして—
7期生	2009	発達のアンバランスを抱える人々を対象とした心理面接プロセスの研究
7期生	2009	臨床心理士志望と適性認知との関連 —友人関係、親子関係の観点から—
7期生	2009	児童養護施設に入所している被虐待児との遊戯療法過程に関する—考察—セラピスト-クライアント関係に注目して—
7期生	2009	対人不安傾向の特質が対話場面における語り手の感情の抑制・表出に及ぼす影響について
7期生	2009	個人心理療法において、アサーティブネスの変容が起こるプロセスの検討
7期生	2009	臨床場面においてクライアントの脆弱性が表現されるプロセスに関する臨床研究
7期生	2009	友人間における怒りの表出体験とアイデンティティの確立との関係について